

南の風

- ・巻頭言
- ・1年生を迎える会
- ・令和6年度職員紹介
- ・5月の予定 等



コミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校を目指して

校長 若狭 陽一

去る3月に開催された学校運営協議会で、委員さんから次のようなお話がありました。

普段60点を取る子どもが70点を取るようになって、この評価基準では、その子どもが認められないことになってしまう。元々80点を取れる子どもが80点を取ったのと、60点を取る子どもが70点を取ったのを比べた場合、後者の方ががんばったと言えるのではないかと。一人一人のがんばりが認められるようにしてほしい。

これは、当校の令和5年度学校評価項目「国語・算数の単元テストで80点を上回る子どもを80%にする」に対して、いただいたご意見です。このご意見は、正に私たち教職員の姿勢を問うているのだと強く受け止めました。

ご存知のとおり、五泉南小学校は、市内の他校と同じくコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度の学校）です。このコミュニティ・スクールは、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。法律に基づいて教育委員会が学校に設置する学校運営協議会には、主な役割として次の3つが挙げられます。

- ①校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。
- ②学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べるができる。
- ③教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる。

先に述べた、3月の学校運営協議会で出た様々な意見を集約すると、以下のようになります。

- 全体としてどの程度できたかを評価するよりも、一人一人の伸びを評価した方がよいのではないかと。できなかった子どもが少しでもできたのなら、褒めてあげればよい。
- 地域で子どもに会うと、子どもの方からあいさつするようになってきた。もっと家庭や地域に働き掛けながら、地域全体であいさつが盛んになるとよい。
- 縦割り班活動で、高学年が低学年に対して優しく気遣う姿を多く見た。この貴重な活動を大切にしていってほしい。

どれも、貴重なご意見です。学校では、これらのご意見を参考に検討を重ね、令和6年度の重点目標や学校評価項目を決めました。今後、5月に開催される学校運営協議会での承認を経て、5月末にはグラウンドデザインという形で、皆様にお示しする予定です。

「学校教育が成果を上げてきたのは、教師の献身的な努力があるからだ」と国は言っています。しかしながら、社会の諸々の課題が学校・教師へ集中し、学校・教師へのバランスを欠いた依存がよりいっそう顕在化しているのも事実です。だからこそ、コミュニティ・スクールの運営を活性化し、子どもを育てることへの地域の熱量が高まっていければと願っています。どうぞ、お力をお貸しください。

